

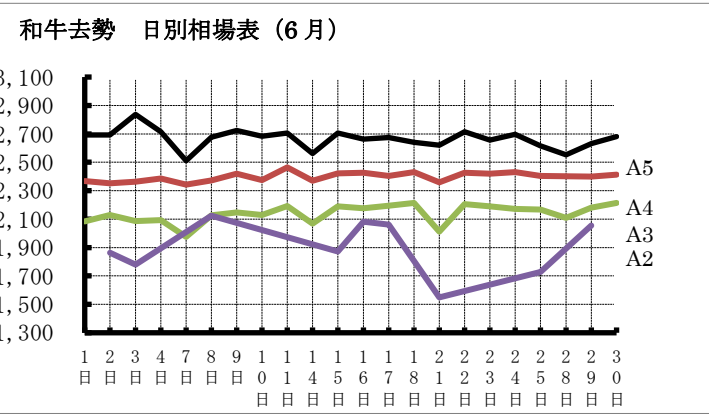
# 月刊しばうら

## 2021年7月号

### 牛肉営業部

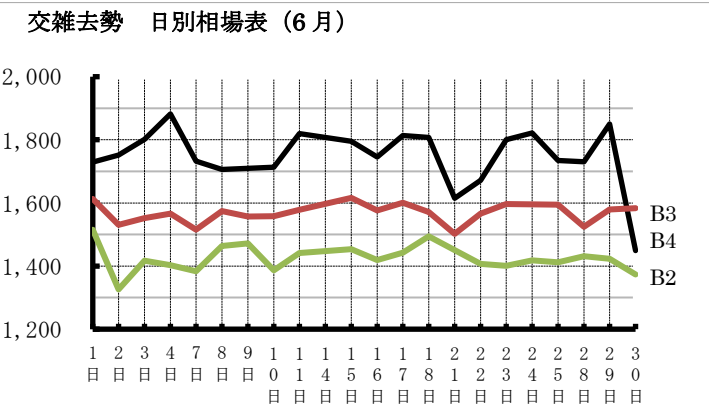
#### <6月の相場動向>

6月は例年牛肉消費が低迷する傾向であることに加え、7都道府県に出されていた緊急事態宣言が7月11日までのまん延防止等重点措置に移行したものの、酒類の提供制限が維持されたことにより、外食需要は低迷した状態が継続した。さらに新型コロナウイルスの封じ込めに成功していたアジア諸国での感染拡大により、好調だった輸出もやや鈍っており5月よりも一段下がった相場展開となっている。しかし、和牛については国の保管事業が機能していることもあり価格は下支えされた展開に、交雑種や乳牛については、輸入原料の高騰もあり量販店等の需要により下支えされた展開となった。



#### 和牛去勢 (月平均)

	加重平均	前年同月比		前月比	
A5	2,676円	+373円	116.2%	-7円	99.7%
A4	2,399円	+521円	127.7%	-10円	99.6%
A3	2,153円	+482円	128.8%	-67円	97.0%
A2	1,925円	+420円	127.9%	+119円	106.6%



#### 交雑去勢 (月平均)

	加重平均	前年同月比		前月比	
B4	1,774円	+372円	126.5%	-29円	98.4%
B3	1,578円	+378円	131.5%	-103円	93.9%
B2	1,425円	+381円	136.5%	-122円	92.1%

### 乳牛去勢 (月平均)

	加重平均	前年同月比		前月比	
B3	上場なし	-	-	-	-
B2	1,087円	+155円	116.6%	+2円	100.2%

#### <7月の牛肉輸入量予測>

財務省が発表した輸入通関実績によると、5月の輸入量は前年同月比0.7%減の4万9,666tで、うちチルドは9.7%増の2万2,582tと大きく上回った。冷蔵品については前年に北米現地工場の稼働停止の影響で少なかった反動によるものとみられる。

農畜産業振興機構によると6月の牛肉輸入数量は、前年比4.4%減の4万8,500tで引き続きの減少と予測していたが、速報値では前年同月比2.5%増の5万1,867tとなった。前年同月を上回るのは7か月ぶり。引き続き入船遅れの影響や豪州及び米国の現地価格の高騰により、前年同月を下回ると予測をしていたが、入船遅れ分の入荷やスーパー向けに仕入れる動きがあったためとみられる。

輸入牛肉通関量		5月	前年同月	前年同月比
チルド	豪州	8,217	10,431	78.8%
	米国	11,710	8,602	136.1%
	その他	2,655	1,551	171.2%
	合計	22,582	20,584	109.7%
フローズン	豪州	11,983	13,603	88.1%
	米国	8,764	10,049	87.2%
	その他	6,337	5,800	109.3%
	合計	27,084	29,452	92.0%

出典：食肉速報 単位：t

#### <7月の全国出荷頭数予測>

農畜産業振興機構による7月の出荷予測頭数は、全体で前年比94.0%の8万9,700頭で、品種別にみると和牛は6.0%減の4万3,200頭、交雑種は8.9%減の1万8,800頭、乳用種は3.8%減の2万6,100頭と予測している。

東京食肉市場の7月のと畜頭数は7,680頭を予定しています。

#### <7月の牛枝肉相場見通し>

現在発出されている緊急事態宣言やまん延防止等重点措置では酒類の提供の制限などもあり、外食需要は大きく落ち込んだままとなっている。

東京を中心とした感染者の増加により、東京では4度目の緊急事態宣言の発出、埼玉・千葉・神奈川・大阪ではまん延防止等重点措置の継続となり、外食の需要回復はさらに遅れることとなる。

輸出は全体では好調であるものの、一部の国や地域では新型コロナウイルスの感染拡大により勢いを失ってきていることもあり、和牛の相場は下旬まではもちあいの展開が予想される。量販店で引き合いの強い交雑種や乳牛去勢は米国産や豪州産の価格が高騰していることから、価格は維持するものと考えられる。下旬以降は盆需要の手当て買いで上向きが予想されるが、大きくは伸びないと考えられる。

和牛去勢	価格予測	交雑去勢	価格予測
A5	2,500～2,600	B4	1,750～1,800
A4	2,350～2,450	B3	1,550～1,650
A3	2,200～2,300	B2	1,450～1,550
A2	2,050～2,150		
乳牛去勢			
B3	1,100～1,150		
B2	1,000～1,050		

### 豚肉営業部

5月の全国と畜頭数は、前年同月比1.5%増の130万9,467頭。また、5月の豚肉通関数量は7万1,254t（前年同月比10.9%減）と前年同月を下回り、前月比27.8%の大幅減。内訳はチルドが3万4,545t（3.1%増）と増加し、フローズンは3万6,710t（20.9%減）と大幅減となった。

2019-2020年の需給量と推定期末在庫						
月	供給量		推定期末在庫		推定出回り量	
	生産量	輸入量	国産物	輸入物	国産物	輸入物
5	71,318	79,864	20,858	214,884	73,523	65,801
6	72,535	79,522	23,208	211,865	70,031	82,541
7	73,967	75,011	21,378	204,074	75,708	82,802
8	68,179	68,431	20,340	200,507	69,117	71,998
9	71,876	65,416	19,685	193,386	72,409	72,537
10	80,156	72,415	19,333	184,855	80,388	80,946
11	79,406	70,497	19,411	175,578	79,178	79,774
12	82,555	71,474	20,414	167,897	81,364	79,155
1	78,800	66,620	22,433	160,131	76,657	74,386
2	73,648	64,209	22,875	161,399	73,069	62,941
3	83,976	68,957	24,104	157,880	82,627	72,476
4	80,131	98,642	25,593	159,043	78,537	97,479
5	72,872	71,194	25,852	159,623	72,522	70,614
比	102%	89%	124%	74%	99%	107%

出典：農畜産業振興機構 比：最終月の前年同期比 単位：t

5月豚肉通関実績					
国名	冷蔵	前年比	国名	冷凍	前年比
アメリカ	15,669	90.3%	デンマーク	6,233	111.3%
カナダ	17,343	114.1%	スペイン	7,426	73.1%
メキシコ	1,533	161.7%	メキシコ	7,796	86.3%
			アメリカ	4,187	83.6%
			カナダ	2,715	74.8%
合計	34,545	103.1%		36,710	79.1%

単位：t

#### <6月の豚取引の推移>

	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
1日	64,000	641	627	801
2日	59,700	633	617	660
3日	63,900	669	641	617
4日	58,100	635	632	888
5日	57,600	662	654	599
8日	66,700	674	661	839
9日	60,600	651	634	620
平均	61,514/日			718/日

6月に入って末端消費は旺盛な状況にはないが、出荷頭数が減少傾向となってきたことにより相場は上・中ともに600円超えの高値での展開となった。

	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
10日	64,600	624	611	633
11日	58,600	597	559	878
12日	59,600	603	525	746
15日	64,600	582	539	797
16日	60,300	597	537	512
17日	63,500	606	574	510
18日	60,700	599	576	747
平均	61,700/日			689/日

全国と畜頭数は6万頭を割り込む日もあり、頭数減少によって品薄感が強まり、実需以上に相場価格は高値で推移した。また、輸入物の現地価格が上昇したことによる影響も受け始めた。

	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
21日	62,200	610	573	535
22日	63,800	615	601	833
23日	57,800	614	583	606
24日	61,700	609	577	618
25日	56,800	608	583	828
28日	59,000	619	579	625
29日	61,400	599	576	745
30日	58,600	634	593	523
平均	60,163/日			664/日

末端消費は不需要期もあり鈍い状況が続いたが、気候変動や豚熱（CSF）の影響などもあり頭数が減少し、更には輸入物品の通関遅れなどもあって相場は底堅い展開となった。

#### <7月の豚枝肉相場見通し>

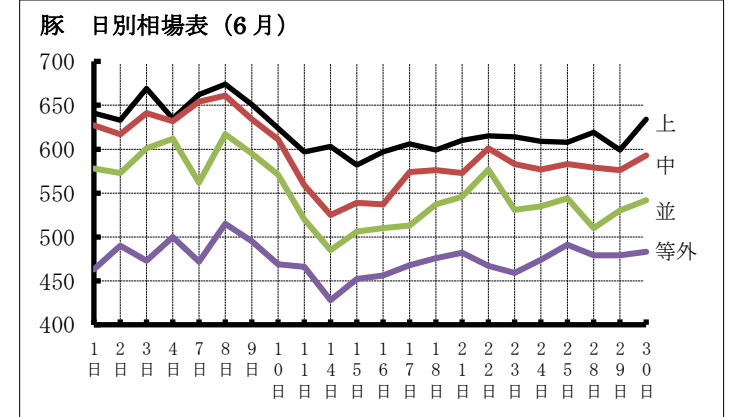
農林水産省による7月の肉豚出荷予測では131万5,000頭（前年比97%）と予測している。当市場の7月集荷予定頭数は1万5,500頭、1日あたりでは約775頭を見込んでいます。

農畜産業振興機構によると7月分の豚肉輸入見込数量は総量で6万9,100t（同92.1%）、内訳は冷蔵輸入量が3万1,400t（同90.6%）、冷凍輸入量は3万7,700t（同93.4%）と予測。

冷蔵品輸入量は、北米における現地価格の高騰などにより前年同月をかなりの程度下回ると予測する。なお、3ヵ月平均は前年同期をわずかに下回ると予測する。冷凍品輸入量はアジア諸国を中心とした買い付けや、北米及びEU各国の国内需要の増加による現地価格の高騰などから、大幅に前年同月を下回ると予測する。同じく3ヵ月平均も前年同期を大幅に下回ると予測する。

7月は農水省の予測でも出荷頭数は減少し、気温上昇による増体不良によって供給面での期待はできない。更に輸入も潤沢ではないことが見込まれることから、相場は高値での推移が予想される。また4週目には4連休を控えており、手当て買いの動きから連休前には相場が一時的に急騰する可能性もある。

以上のことから当市場の上物平均価格は620円前後、中物平均価格600円前後の展開と予測する。



**東京都港区港南2-7-19**  
**東京食肉市場株式会社**  
**TEL:03-3740-3111 FAX:03-3472-0127**